

## 子どもたちに早期にタブレットを与えることの危険性

西本裕輝  
(琉球大学教授)

2021年3月12日、文部科学省は「GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な利活用等について」という通知を出し、そして2021年4月から日本全国すべての小中学生に「端末」(以下、タブレットと言う)の配布が開始された。

これまで行政や教育現場は、子どもたちからタブレットやスマホといったメディア機器を遠ざける方針を取ってきた。典型的なのは香川県の例で、2020年4月、18歳未満のゲームの利用を原則1日1時間に制限する香川県ゲーム依存症規制条例が施行された。それに連動して香川県教育委員会も2021年3月に「学校現場におけるネット・ゲーム依存予防対策マニュアル」を発行し、ネットやゲームへの依存について注意喚起を行っている。他にも北海道教育委員会の推進する「ノーゲームデー」、玉野市教育委員会、北広島市教育委員会など多くの教委が実施する「ノーメディアデー」も同様の趣旨の動きであろう。文部科学省も、「スマートフォンやタブレットなどの使いすぎ」に警鐘を鳴らす動画を作成しYouTubeで公開している ([https://youtu.be/cEr\\_gyQnH9A](https://youtu.be/cEr_gyQnH9A) 2022年7月21日確認)。

以上の経緯を考えると、2021年4月からの1人1台タブレットの導入は、強制的に小学1年生からスマホデビューさせるようなものであり、学校現場にとって大きな方針転換であると言えるだろう。と言うよりも、今回の改革はこれまで子どもたちをメディア機器からできるだけ遠ざけようとしてきた方針と完全に矛盾するものである。

私自身は、小学1年生からタブレットを与えることは非常に危険であると考えている。根拠は脳科学である。

脳科学の分野には、脳の未発達な子どもにタブレットを使用させることの危険性を指摘する研究に枚挙にいとまがない。これらの研究は端的に言えば、タブレット使用は脳の発達に悪影響を及ぼし、集中力・気力・記憶力の低下、うつ病の増加を引き起こすという指摘である。例えば、脳科学者の川島隆太氏(東北大学)は、これまで学習ゲーム開発に携わってきたが、途中からその危険性に気づき、最近ではその贖罪として、著書等によってスマホやタブレットの危険性を訴えている(川島 2018『スマホが学力を破壊する』集英社新書)。川島氏は、子どもたちによる長時間使用の危険性や、成績に及ぼす悪影響について論じている。そして約70,000人を対象とした調査結果により、スマホは有害であると結論付けている。

さらにストックホルムの精神科医アンデシュ・ハンセン氏の著書は世界中でベストセラーとなっているが、スマホ使用中には脳内からドーパミンが放出されており、それはちょうどドラッグを使用している状態と同じであり、依存に陥る非常性があると指摘している(ハンセン 2020『スマホ脳』新潮新書)。

しかしながら、このような危険性を認識していない親は多い。よく「うちの子は2歳なのにもうスマホを使いこなしている」と誇らしげに語る親を見かけるが、脳科学を学んでいる人間からすると恐怖すら覚える光景である。一方、以上のような危険性をきちんと認識している比較的教

---

育熱心な親には、我が子のスマホデビューをできるだけ遅らせようとする傾向があるように思われる。私の知り合いの東大生の母親が、我が子にスマホを買い与えたのは大学入学後であった。実際、先ほど紹介した『スマホ脳』では、iPadを世に出したAppleの創業者スティーブ・ジョブズが、我が子にはタブレットを触らせなかったというエピソードが紹介されている。Microsoftの創業者ビル・ゲイツにも同じような逸話が残っている。つまり開発者側は、その危険性を最初から認識していたことになる。こうした脳科学の知見はWHO(世界保健機関)が2019年5月に「ゲーム障害」という新たな疾病を定め、警鐘を鳴らしている動きとも符合する。

このように脳科学の立場からすればタブレットには中毒性があり、川島氏をして「脳の麻薬」、ハンセン氏をして「脳にとっての最新ドラッグ」と言わしめるほど危険なものである。小学生のうちにタバコやアルコールを覚えさせることと同義であり、にもかかわらずそのような危険性の検討を十分に行うことなく、今回の改革が進められていることについて注意喚起を行う必要がある。そもそも義務教育段階で(とりわけ低学年から)導入する必然性はどの程度あるのだろうか。小学1年生の未発達な脳にとって安全であるというエビデンスはどこにあるのだろうか。

今回の改革では、学校がスマホデビューの時期を早め、学校が子どもたちを依存に導ききっかけを与えることにもなる。学校で配布されるタブレットにはロックがかかっている、そもそもゲームができない仕様になっているのでそのような心配はないという意見もあるが、子どもたちは常に大人の想定を超えるものである。高学年にもなると、比較的容易にペアレンタル・ロックを解除するようになることも知られている。実際、ネット上にはロックの解除の仕方についての情報があふれている。

いずれにしても、タブレット導入はその安全かどうかも含めあまりにも実証データが不足している、今回の改革を無批判に進めるのは非常に危ういと言える。いつまでも子どもたちを現在進行中の大規模な実験の被験者にしてはならない。

#### 〈参考文献〉

- アンデシュ・ハンセン、2020『スマホ脳』新潮新書。  
川島隆太、2018『スマホが学力を破壊する』集英社新書。